

注)作成に当たっては「6次産業化推進整備事業における費用対効果分析の実施について」を参照してください。

費用対効果分析(投資効率)

記入例

\*農業法人が、ほうれん草入りコロッケの製造に取り組むため、業務用フライヤー、じゃがいも収穫機械(ポテトハーベスター)、ほうれん草栽培施設(低コスト耐候性ハウス)を導入するという設定。

1 農林水産物等の生産向上に係る効果

(1) 農業生産向上効果

(ア) 作付増加効果 (\*ポテトハーベスターを導入することにより作付面積が増加)

対象作物	現況作付面積 (ha) ①	計画作付面積 (ha) ②	作付面積増減 (ha) ③=②-①	現況単収 (t/ha) ④	現況生産物単 価(千円/t)⑤	純益率(%) ⑥	年効果額(千円) ⑦=③×④×⑤× ⑥×0.01
ばれいしょ	20	22	2	30	120	15	1,080
計							

データの出典

ばれいしょの単価:〇〇地方市場における最近5ヶ年の卸売単価の平均

(イ) 単収増加効果 (\*ほうれん草をハウスで栽培することにより、凍霜害が回避されて収量が増加)

対象作物	現況単収 (t/ha) ①	計画単収 (t/ha) ②	単収増減 (t/ha) ③=②-①	効果発生面積 (ha) ④	現況生産物単 価(千円/t)⑤	純益率(%) ⑥	年効果額(千円) ⑦=③×④×⑤× ⑥×0.01
ほうれん草	13	15	2	0.1	350	70	49
計							

データの出典

ほうれん草の単価:〇〇地方市場における最近5ヶ年の卸売単価の平均

(ウ) 品質等向上効果 (\*ほうれん草をハウスで栽培することにより、A品率が増加して単価が上昇)

対象作物	効果発生面積 (ha) ①	計画単収 (t/ha) ②	効果発生量(t) ③=①×②	生産物単価(千円/t)			年効果額(千円) ⑦=③×⑥
				現況 ④	計画 ⑤	上昇額 ⑥=⑤-④	
ほうれん草	0.1	15	1.5	350	370	20	30
計							

データの出典

ほうれん草の単価:〇〇地方市場における最近5ヶ年の卸売単価の平均

(オ) 農畜産物等加工効果 (\*フライヤーで新たにコロッケを製造することで、付加価値が上昇)

取扱品目名	取扱数量		効果発生量 (t) ③=②-①	品目単価(千円) /t ④	年効果額(千円)		
	現況 (t) ①	整備後 (t) ②			純益率 * (%) ⑤	⑥=③×④×⑤ ×0.01	
ほうれん草入りコロッケ	0	0.5	0.5	1,000	30	150	
計							

データの出典

\*ほうれん草入りコロッケの製造原価と販売金額から純益率(利益率)を算出。

ほうれん草入りコロッケの製造原価の内訳:原材料費〇〇千円、一般経費〇〇千円、人件費〇〇円、  
租税公課(固定資産税)〇〇千円

### 3 投資効率等の総括

#### (1) 年総効果額の総括

(単位:千円)

効果区分	効果内容	年総効果額
農林水産物等の生産向上に係る効果	作付増加効果	1,080
	単収増加効果	49
	品質向上効果	30
	農畜産物等加工効果	150
計		1,309

#### (2) 総合耐用年数の算出

(単位:千円)

機械・施設名	耐用年数 ①	工事費等 ②	年工事費(減価額) ③=②÷①
ポテトハーベスター	7	3,000	429
低コスト耐候性ハウス	17	7,000	412
業務用フライヤー	10	1,000	100
計		④ 11,000	⑤ 941
総合耐用年数=④÷⑤		12 年	
計			

#### (4) 経済効果総括表

区分	算式	数値	備考
総事業費	①	11,000 千円	
年総効果額	②	1,309 千円	
総合耐用年数	③	12 年	
還元率	④	0.1066	
妥当投資額	⑤=②÷④	12,280 千円	
廃用損失額	⑥	0 千円	
投資効率	⑦=(⑤-⑥)÷①	1.12	

注1 還元率= $\{i \times (1+i)^n\} \div \{(1+i)^n - 1\}$ 、 $i=0.04$ (割引率)、 $n$ =総合耐用年数

2 投資効率は小数点以下2桁まで求めるものとする。